

ひとを育てる活動

カレッジ卒業おめでとう！

— 今年も3名が卒業し、教師国家試験 LET をめざします —



卒業式を終えて

左から、マリーグレース、ジェラルディン、アイリーン（3/29 CMIP 本部事務局前で）

CMIP 事務局の報告によると、この3名は、すでに CMIP 教師チームの一員として、長引く干ばつで、餓死者も出ている山岳部の村で食料配給作業を手伝っています。

JAUM 奨学生ジェニリン、その後

この3月、上記3名とともにカレッジを卒業の予定だったジェニリン（84号P2）からは、4月10日現在連絡がありません。次号でよい便りをお伝えできることを願っています。

前号で報告のように、昨年卒業のカルメラとエボニーが、LET 合格と公立学校就職をめざして未だ奮闘中のなか、この3月には新たに3名（写真）が GFI カレッジ教育学部を卒業しました。

新卒者は、児童数が増えている辺境の村ナブルやバンリの CMIP 新設校に配属され、週末はジェネラルサントスの LET 受験予備校に通います。教師としての報酬は、交通費、食費分の 2000 ペソ/月です。このように、私たちが CMIP に委託している奨学金事業では、カレッジ卒業の場合、最低1年間、CMIP 校で働くか、事務手伝いをするかになっています。

子どもが3人いて忙しいせい、LET に合格できず、CMIP 勤務が続いているチェリルのようなケースもあります。5年前の CMIP キアミ小で、新卒ながら、低学年の子ども相手にうまく授業を進めているチェリルを見ました。1-2 回の挑戦で合格し、給与の高い公立ハイスクール教師を選択、CMIP 校勤務から離れるケースが多い中、チェリル先生は CMIP にとっては貴重な人材です。

公立学校の教師になるための関門 LET は大変難しいと聞いていますが、P1 で紹介のジミーのように、安定した収入により、家族や親族を支え、かつ、後輩のピラーンやチボリの教育機会拡大に貢献できるように、今年の卒業生についても、LET 挑戦の経費を支援の予定です。

長い間のご支援ありがとうございました！

3月卒業の CMIP 経由で支援の奨学生と支援会員

小学校卒業生（2名）		カレッジ卒業（3名）	
Recil B.	山田様	MaryGrace T	伊藤様
Cherry L.	古厩様	Geraldin C.	山村様
		Iren S..	安達様

フィリピンの学制改革（詳細P3）により、今年はハイスクール卒業生がいません。10年生（旧4年生）は、この6月には、11年生としてカレッジ進学コースや技術家庭科コースなどを選択し、引き続き2年間ハイスクールで学びます。

ブラクール小では7名が卒業

元FOT会員（現10名）で支えているブラクールの住民組織運営の小学校でも3月30日に卒業式が行われ、7名が卒業しました。ハイスクール部門は、生徒数減少等の理由で3年前に閉校になったため、今年の卒業生も全員、6月からは、山のふもとの公立ハイスクールまで通うこととなります。

夏休みに入った今、卒業生は父母を手伝い、6年前の支援によるゴム苗木のうち、収穫期を迎えた一部について、樹液採取に従事しているということです。ゴム収入による授業料納付率向上で、学校運営が安定をする日も近いと期待しています。

ナブルで初の卒業式 第一期生 38名！

4月初め、ナブル校のエボニー先生から卒業式の報告が届きました。「開設時から住民とともに働いてきたイトック神父は、感極まって祝辞では言葉を詰まらせていました」とありました。残念ながら、写真は今回間に合いませんでした。

一番近い公立小学校まで2時間以上という辺境に位置し、学校に行けない子どもが多数いたキナム村ナブル地区での学校開設の支援要請があったのは2010年でした。過去に簡易水道の支援をいただいた鎌ヶ谷国際文化交流会（ICECK）の協力を再度いただき、ナブル・カマガヤ小と名付けました。会報81号による2教室増築呼びかけに、チボリ子ども支援会員2名が応えて下さいました。おかげで、1-6年生までの6教室が整備され、生徒数250名余りと、CMIP運営4校のうち最大規模の小学校として、この3月38名が卒業しました。

6月新学期から通学する公立ハイスクールは、遠い上、険しい山道や橋のない川があり大変ですが、初等教育を終えた子どもたちはもう充分体力があります。卒業記念にICECKから贈られた通学バッグを背に、38名の新たな挑戦が始まります。